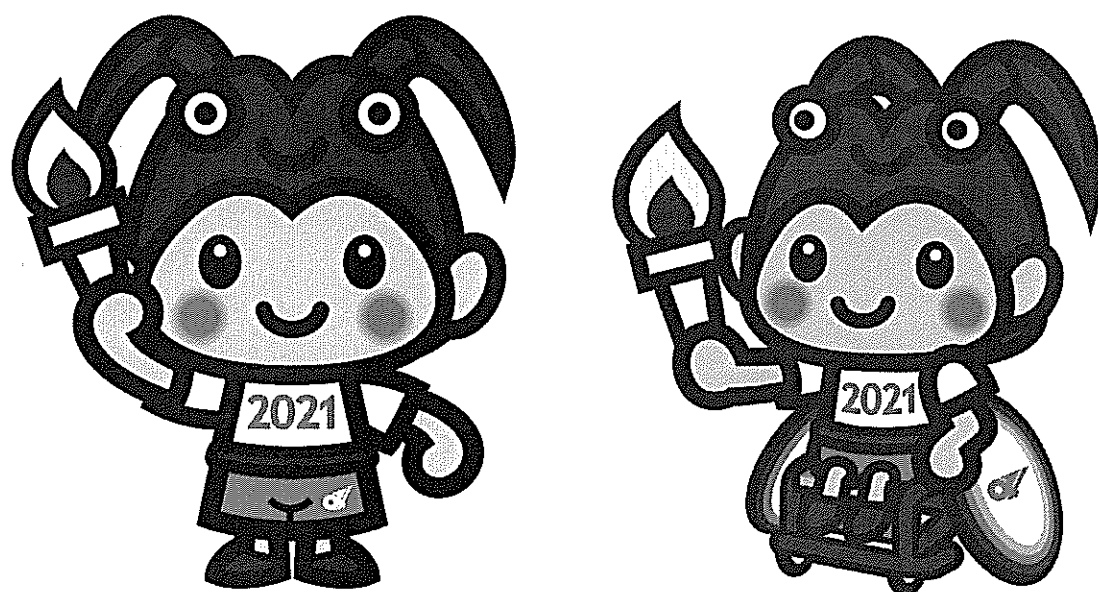


# 三重県競技力向上対策本部

## 第7回本部会議



平成31年4月16日（火）

ホテルグリーンパーク津



# 三重県競技力向上対策本部 第7回本部会議 資料目次

○ 三重県競技力向上対策本部第7回本部会議式次第	P	3
○ 報告事項		
(報告事項1) 委員及び役員の変更	P	7
(報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過	P	8
(報告事項3) 三重県競技力向上対策本部第11回競技力向上対策委員会の概要	P	11
(報告事項4) 第73回国民体育大会の総合成績	P	13
(報告事項5) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要	P	14
(報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の概要	P	22
(報告事項7) 平成30年度補正予算の専決処分	P	24
(報告事項8) 三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の審議 決定事項	P	25
○ 審議事項		
(第1号議案) 平成30年度事業報告(案)	P	59
(第2号議案) 平成30年度収支決算(案)	P	63
(第3号議案) 2019年度事業計画(案)	P	65
(第4号議案) 2019年度収支予算(案)	P	67
○ その他		
(情報共有事項1) 三重とわか国体・三重とわか大会の開催準備について	P	71
(情報共有事項2) 第2次三重県スポーツ推進計画について	P	73



# 三重県競技力向上対策本部 第7回本部会議 式次第

平成31年4月16日(火)  
本庁ビル6階 葵・橘の間

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 報告事項

- (報告事項1) 委員及び役員の変更
- (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過
- (報告事項3) 三重県競技力向上対策本部第11回競技力向上対策委員会の概要
- (報告事項4) 第73回国民体育大会の総合成績
- (報告事項5) 三重県競技力向上対策本部各専門委員会の概要
- (報告事項6) 三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の概要
- (報告事項7) 平成30年度補正予算の専決処分
- (報告事項8) 三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会の審議決定事項

## 4 審議事項

- (第1号議案) 平成30年度事業報告(案)
- (第2号議案) 平成30年度収支決算(案)
- (第3号議案) 2019年度事業計画(案)
- (第4号議案) 2019年度収支予算(案)

## 5 その他

- (情報共有事項1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備について
- (情報共有事項2) 第2次三重県スポーツ推進計画について

## 6 閉 会



# 報 告 事 項





## 委員及び役員の変更

	選出区分	所属機関・団体・役職名	新	旧
副本部長	学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会	向井 弘光 (副会長)	竹林 武一 (会長)
委 員	県議会関係	三重県議会議長	前田 剛志	舟橋 裕幸
	市町関係	三重県市長会会長	鈴木 健一	前葉 泰幸
	教育関係	三重県市町教育長会会長	中田 雅喜	上島 和久
	産業・経済関係	三重県商工会連合会会長	坂下 啓登	藤田 正美
	学校・スポーツ 団体関係	三重県高等学校体育連盟会長	阿形 克己	辻 昭司
監 事	県関係	三重県出納局副局長兼出納総務課長	紀平 益美	中嶋 中
	学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会監事	天野 晴夫	立藤 三千洋

## 三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月13日	三重県競技力向上対策本部「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
12月16日	三重県競技力向上対策本部「第1回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月13日	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月19日	三重県競技力向上対策本部「第2回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月23日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。

9月4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
平成28年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第6回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第4回本部会議」を開催しました。
7月20日	公益財団法人日本体育協会理事会にて、平成33年第76回国民体育大会の開催地として内定されました。
9月14日	三重県競技力向上対策本部「第7回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第4回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月22日	三重県競技力向上対策本部「第4回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
平成29年 3月23日	三重県競技力向上対策本部「第8回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月18日	三重県競技力向上対策本部「第5回本部会議」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第5回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部「第5回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月20日	三重県競技力向上対策本部「第9回競技力向上対策委員会」を開催しました。

平成30年 3月14日	三重県競技力向上対策本部「第10回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月16日	三重県競技力向上対策本部「第6回本部会議」を開催しました。
7月18日	公益財団法人日本スポーツ協会理事会にて、2021年第76回国民体育大会の開催地として正式に決定されました。
10月23日	三重県競技力向上対策本部「第6回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
10月30日	三重県競技力向上対策本部「第6回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
10月31日	三重県競技力向上対策本部を開催しました。「第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第11回競技力向上対策委員会」を開催しました。
平成31年 3月18日	三重県競技力向上対策本部「第12回競技力向上対策委員会」を開催しました。

## 三重県競技力向上対策本部第11回競技力向上対策委員会に係る概要

平成30年11月16日（金）  
プラザ洞津 高砂の間

## 1 躍進期（茨城国体）に向けた取組について

## (1) ブロック突破率の向上とA・B区分としながら福井国体で入賞できなかった競技の強化対策について

- ・東海ブロック大会で敗退してしまった競技の中には本国体で入賞した県に惜しいところで敗れてしまったものもある。本戦に出場さえすれば入賞できるレベルにあるものもある。やはりブロックを突破することが、0点競技の減少、競技得点の増加につながるため、それらの競技には重点的な強化費の支援が必要である。
- ・有力なふるさと選手の協力が必要になることがあるが、ふるさと選手は三重県での強化練習になかなか集まらない。また、日常の練習にばらつきがあり、状態の把握、管理を行う必要がある。
- ・茨城国体に向けた戦力を分析した上で強化費の配分を行う必要がある。より強いところへの分配も必要なのではないか。
- ・ストレート競技の選手については、どのような基準で派遣しているのか。
- ・陸上競技は4種別で29名のエントリー、男女の内訳は最低でも片方10名。その枠の中で、得点の可能性が高い選手を選抜している。少年種別においては、強化指定選手制度を設け、特に活躍が見込める選手については、少Bの課題に対応するためにも中3の引退後から高校入学までの間、練習が出来るようにしている。三重国体での活躍を見越した選手選考も一部で行っている。
- ・標準記録を破った選手がオリンピックに出られなかったことがある。それを受けて、さらに高い派遣設定記録を設定し、良い結果を出した例がある。標準記録を破ったら出られるだけでなく、さらに高い派遣設定記録を設けるのもいいのではないか。

## (2) 成年種別における強化体制（スタッフ）の充実について

- ・トレーナーを招聘したバックアップを行う必要がある。
- ・派遣設定記録が高くなることで選手の人数が少なくなるのであれば、サポートの人員に派遣人数を割いてもいいのではないか。サポートスタッフを万全に整えて、確実に入賞できるよう戦うことも重要である。

## 2 三重とこわか国体に向けた取組について

## (1) 育成期で得点できなかった競技や団体競技の強化策について

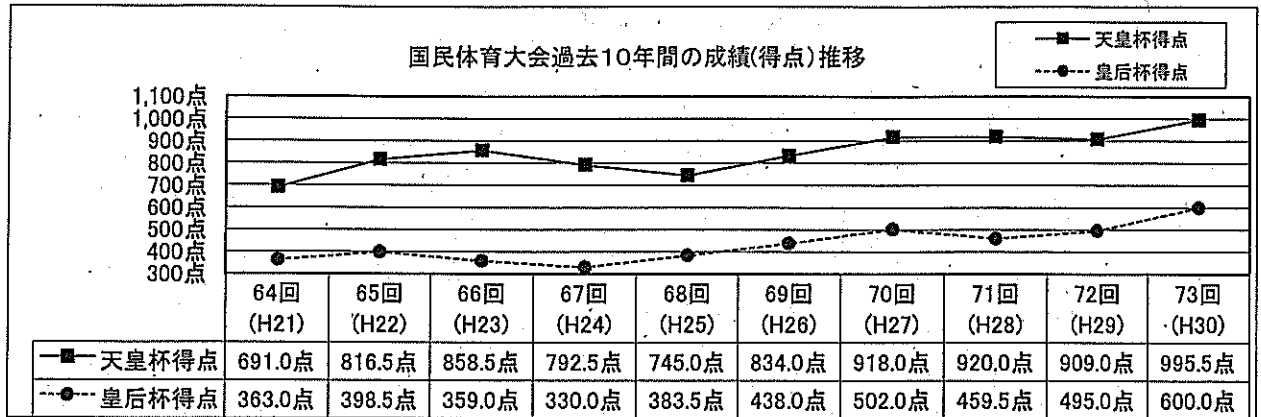
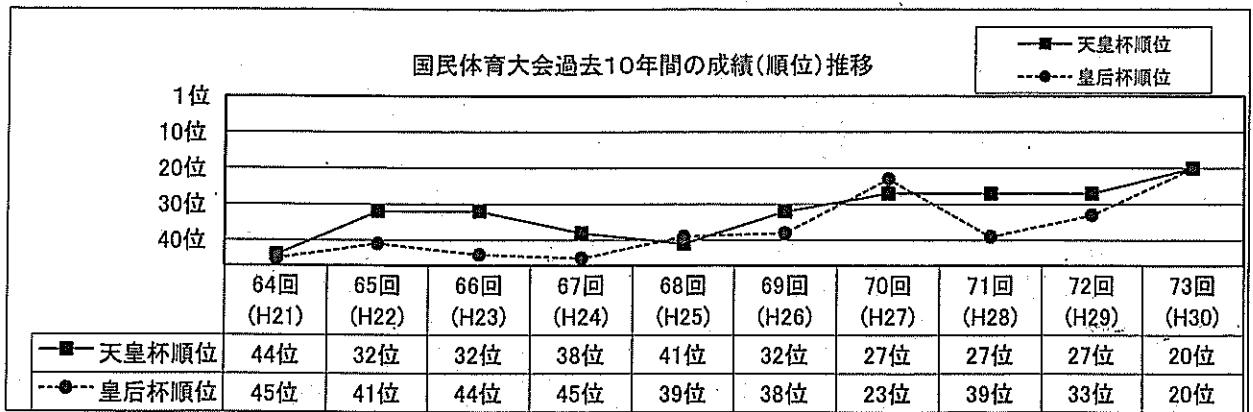
- ・福井国体の天皇杯順位20位は評価できる。得点については競技得点600点から2300点と4倍程度に伸ばす必要がある。福井はかなりのことをやったと聞く。三重県も本気で天皇杯をとるのであれば、相応の努力が必要である。
- ・成年の強化はスカウトが重要である。軍資金をしっかりと準備した上で、足を何度も運んで良いつながりを作る必要がある。またスカウト活動にオール三重で取り組む必要があり、職員の増員や、他部署の職員とも連携をしっかりとって、組織の枠を超えたスカウト体制の強化が必要なのではないか。その際に手土産は必要でその予算化が必要である。

- ・予算については、国体のグッズを販売して、準備するのでもいいのではないか。岐阜県においては国体グッズ販売コーナーがどこに行ってもあった。まだまだ三重県全体で国体に対する機運が高まっていない。ブランディングにより、気運を高めることが、お金を集めることにも、就職支援の協力をしてもらうことにもつながる。
- ・大手企業への働きかけは知事のようなトップからの働きかけが必要ではないか。
- ・クラブの方針によって協力体制が左右されないよう、クラブとの関係を築き、国体強化とのバランスをとることが大事である。
- ・成年種別については、これからの育成は難しいので、即戦力となる選手をしっかりと分析して獲得する必要がある。
- ・教員採用の枠（特に高校）を確保してほしい。トップアスリートは最終的に教員を望む選手が多い競技もある。
- ・教育委員会としても獲得できる人数を増やせるよう取り組んでいきたい。
- ・競技団体でしっかりと2021年までの強化戦略プランを立てる必要がある。それに基づいて評価をして、強化費の配分をする必要がある。
- ・県外からの入学制度、教員の採用、県職員の採用について、教育委員会、人事委員会含めて全庁的な取組が必要である。
- ・強化チームの練習について、会場の確保ができない、会場費がかかるという問題がある。特例的な制度が必要である。

(2) 少年種別におけるターゲットエイジで、チームの核となる個の強化策と単独チームと選抜チームに対する効果的な強化支援の方法について

- ・ターゲットエイジであるジュニア選手の戦力分析をする必要がある。
- ・県外からの入学の制度ができたが、学校で強化指定クラブが複数あると、1競技あたりで県外からの入学できる人数がほとんどいなくなってしまふ。強化指定クラブの数に応じて考慮してほしい。また、前期入試・後期入試で分けられてしまうと、後期入試で県外有力選手が入ってくることはまずないので、無駄になってしまうので、前期だけでとれるようにしてほしい。
- ・前期のみに集中させてしまうと、三重県内の生徒の入学の圧迫がより進んでしまう。そういった部分を考慮している。現状ではすぐに変えることは難しい。
- ・国体を控えて普通とは状況が変わってきている。入学制度について何とかできる方法がないか探っていく必要がある。待たなしの時期であるので、教育委員会で早急に対応を進めてほしい。
- ・若者の流出が問題となっている時代に、県外から生徒が来ていただけるのはむしろありがたい話なのではないか。三重国体までの時限的な制度ではなく、三重国体を機に、柔軟な制度を設け、三重県が選ばれやすいようにする必要がある。
- ・強化指定校への強化費の配分について、競技人数による額の調整が必要である。たとえばサポートスタッフの招聘に使うなど、強化費の使い方について、もっと教育する必要がある。学校単位で強化費をつけるだけではなく、選抜チームで国体に挑む競技については、学校単位が効果的でない場合がある。
- ・選抜チームを結成するものについては、そちらにつけるのがいいのではないか。
- ・少年種別は特にこれまで得点できなかったものについてはトップの指導者を呼んでくるなど指導者の補強が必要である。

### 第73回国民体育大会に係る総合成績



#### 男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	サッカー	104.0	10.0	114.0
3	テニス	36.0	10.0	46.0
3	ハンドボール	52.5	10.0	62.5
6	ウエトリフティング	65.0	10.0	75.0
7	レスリング	40.5	10.0	50.5
7	相撲	21.0	10.0	31.0
8	卓球	16.5	10.0	26.5
9	山岳	36.0	10.0	46.0
12	なぎなた	9.0	10.0	19.0
13	陸上競技	50.5	10.0	60.5
13	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
15	弓道	25.5	10.0	35.5
16	ボウリング	18.0	10.0	28.0
17	セーリング	12.0	10.0	22.0
19	体操	10.0	10.0	20.0
19	フェンシング	6.0	10.0	16.0
20	馬術	14.0	10.0	24.0
20	カヌー	30.0	10.0	40.0
24	スケート	9.0	10.0	19.0
31	ボート	5.0	10.0	15.0
31	自転車	4.0	10.0	14.0
35	水泳	11.0	10.0	21.0
小計	22競技(競技得点あり)	595.5	220.0	815.5
	18競技(参加得点のみ)		180.0	180.0
	40競技	595.5	400.0	995.5

#### 女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	サッカー	64.0	10.0	74.0
1	ハンドボール	40.0	10.0	50.0
2	テニス	24.0	10.0	34.0
5	ラグビーフットボール	20.0	10.0	30.0
5	山岳	36.0	10.0	46.0
6	ウエトリフティング	15.0	10.0	25.0
10	自転車	4.0	10.0	14.0
12	馬術	7.0	10.0	17.0
12	なぎなた	9.0	10.0	19.0
19	陸上競技	18.0	10.0	28.0
22	ボート	5.0	10.0	15.0
22	セーリング	3.0	10.0	13.0
28	カヌー	5.0	10.0	15.0
小計	13競技(競技得点あり)	250.0	130.0	380.0
	22競技(参加得点のみ)		220.0	220.0
	1競技(不参加)		0.0	0.0
	36競技	250.0	350.0	600.0

## 三重県競技力向上対策本部第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会に係る概要

平成30年10月31日(水)

三重県栄町庁舎第51会議室

## (1) 三重とこわか国体に向けた競技力向上対策事業の取組について

- 3年前のこの時期ということを考えると、選手の顔が見えている団体に強化費を支払う必要がある。それが必ずしも学校という単位ではなくてもいいのではないか。また、県外選手の獲得及び県内のトップアスリートの県外流出を止めるための手立てを立てる必要があるのではないか。入試の問題も同じであり、早急に手立てを打つべきである。
- 四日市商業では、強化指定クラブが5競技あるが、前期入試で6人しかとることができないとなると、クラブ顧問としては計画的に選手を獲得することは不可能であり、早急に対応を図ってほしい。
- 高等学校の推薦入試や教員採用等の問題をみると、教育委員会が本気になっていないように感じる。もっと全庁的に取り組む必要がある。
- 入試で選手を確保することも大切だが、入学後のフォローアップも大切である。大会や合宿のための公欠等を認める等のシステムを作るべきであると感じている。

## ・中学校運動部強化指定事業

- 支給していただく強化費については、強化練習や遠征に充てさせていただいている。強化練習や遠征で対戦する学校は、全国大会で対戦するわけですので、「場慣れ」するという意味では非常に効果があると考えている。現在の中学生は、「三重とこわか国体」におけるターゲットエイジでもあるため、引き続き継続をしていただきたいと考えている。
- ソフトボールやバドミントン、陸上競技等の競技においては、全国大会でも入賞しており、効果はあるものと考えている。部活動ガイドライン等も定められている今、強化指定していることが少し追い風にもなると感じている。

## ・高校運動部強化指定事業

- 指定していただくことが子どもたちのモチベーションの向上にもつながっており、効果はあるように感じている。ただし、競技によっては温度差もあり、指定を受けていても全国大会での入賞を本気で考えていない指導者もあり、そのことが問題であると感じている。その温度差をなくすこ



とが大切である。

- 全国高等学校総合体育大会での入賞数が増えたことの要因には、強化指定事業が大きくかかわっていると感じている。その一方、組織が未成熟な競技団体や国民体育大会において選抜チームとして活動している競技団体には、うまく機能していない実態もあるように感じている。高体連の各専門部に強化費を配分していたインターハイ強化事業は廃止されたが、国民体育大会は選抜チームで戦うため、インターハイ強化事業のような事業が必要なのではないかと感じている。また、個人競技と団体競技への一人当たりの支給額についても見直しを図る必要があるのではないかと感じている。
- 三重県高等学校体育連盟は、高等学校運動部強化指定事業の委託を受けているため、強化に係る計画書や報告書を処理しているが、取組が効果的でないと感じるものも多いため、内容についても精査をするべきだと感じている。また、その役割をどこが担うのかははっきりしていない。
- 強化指定を受けている学校の運動部の顧問に対しては、もっと真剣に「三重とこわか国体」に向かうように話をするべきだと感じている。顧問間に温度差があるのは、そのためであると感じている。
- 真剣に活動している競技団体や顧問の方々には、戦略的に強化費をつける等、思い切った取組が必要であると感じている。

(2) 全国トップレベルに向けての指導者の資質向上および強化体制について

- チームみえ・コーチアカデミーセンター事業に参加することができたおかげで、後半も体力が落ちなくなったことが国民体育大会での優勝にもつながったと感じているので、効果はあったように感じている。
- ソフトボールでは、指導者の分業制も進んでいるため、複数人で指導を行う必要があると感じている。その点においては、三重県の高校は体制が不十分であるように感じている。
- チームみえコーチアカデミーセンター事業では、講師陣も有名なスタッフの方ばかりであるため、期待している。現時点でのターゲットエイジに対する指導は中学校の指導者が行っているのであれば、三重とこわか国体で実際に指導にあたる指導者との連携をしっかりと取る必要があるように感じている。およその競技で、2021年の選抜チームの監督が定まっておいて、その監督がターゲットエイジとなる中学生選手の指導にも関わっている状況がある。
- 高等学校運動部強化指定事業では、派遣スタッフを呼ぶことも可能であるが、予算の問題や指導者の意識の問題からほとんど呼んでいない実態がある。そこについての指摘やアドバイスを行っていく必要があるよう

に感じている。運動部単位ではなく、学校単位で派遣スタッフを配置する等の弾力的な運用も必要ではないか。強化費や支援をどこに当てるのかについてももっと真剣に議論を行う必要がある。

- 部員数の増加により、寄り添った指導ができにくい状況が生まれてきている。日常的な指導ができる指導者の配置等を検討していただきたい。
- 優秀な指導者の存在は、競技力向上に必須であると感じている。三重とこわか国体の3年前ということを見ると、指導者の養成を行っている場合ではないのではないのか。また、成績を収めた指導者には、しっかりと評価を行う必要がある。
- 三重とこわか国体に向けては、指導者が大会や強化練習に行く機会が増えると思うが、人的な補償をしっかりとしてもらいたい。そのことができなければ、大会や強化練習にも行きづらくなってしまう。
- 選手の勧誘時期についても、私立学校と県内の公立学校とではズレている等の問題が生じているが、この問題についてはぜひ何とかしてもらいたい。この問題は以前から伝えていることであるが、何も変わっていない状況がある。
- 現在の中学生は、三重とこわか国体のターゲットエイジであるため、県内高校でクラブ活動を行う魅力を伝えていく必要がある。
- 県内選手については、施設使用料の減額や免除等の対応を早急にしてもらいたい。せっかく強化費を支払ったとしても日々の施設使用料に充てられているだけではもったいないように感じる。
- 指導者の中でも「三重とこわか国体」に向けた機運の高まりがないように感じている。このことにもっと注力していかないと成功には結びつかないと感じており、早急に手立てを打っていただきたい。
- このような場に出た意見をぜひ行動に結び付けてもらいたい。

## 三重県競技力向上対策本部第6回成年選手強化専門委員会に係る概要

平成30年10月23日(火)  
三重県栄町庁舎第51会議室

## (1) 重点強化競技の指定と強化について

下記に示す競技については、「三重とこわか国体」において100点以上の競技得点の獲得が見込まれることから、重点強化競技とし、選手獲得(マッチングを含む)、ディレクター配置、強化活動支援等を優先的に進めることとします。

- ①サッカー(132)：クラブチーム支援、代表チーム支援
  - ②ボート(131)：選手獲得支援、ディレクター配置、代表チーム支援
  - ③ホッケー(120)：選手獲得、クラブチーム支援、代表チーム支援
  - ④体操(168)：クラブチーム支援、代表チーム支援
  - ⑤ハンドボール(135)：選手獲得支援、代表チーム支援
  - ⑥ソフトテニス(110)：選手獲得支援、代表チーム支援
  - ⑦ソフトボール(152)：選手獲得支援、クラブチーム支援、代表チーム支援
  - ⑧剣道(129)：選手獲得支援、ディレクター配置、代表チーム支援
  - ⑨ラグビーフットボール(114)：選手獲得支援、クラブチーム支援、代表チーム支援
- 【9競技、1191点】

※第10回競技力向上対策委員会資料より抜粋

- 重点強化競技は、「三重とこわか国体」で100点以上の競技得点の獲得が見込める競技であることから、その他の競技とは区別して、強化費の重点的な投入や練習環境の整備といった競技力向上に係る取組を行う必要がある。
- 重点強化競技の中には、サッカー競技のように既に100点以上の競技得点を獲得している競技団体もあれば、チームの設立から着手する必要がある競技団体もある。チームの設立には、労力がかかるため、競技団体任せにするのではなく、対策本部が積極的にかかわる必要がある。
- 事務局として、競技団体や種別に求める競技得点を正確に割り出すとともに、進捗状況の把握、課題解決に向けた取組を計画的に行う必要がある。
- 最近のスポーツ界では、複数の指導者がチームを結成し、指導にあたるケースが多くみられる。重点強化競技は団体競技が多いため、指導者の役割を分業化し、取組を進めていく必要がある。現在、事務局として取組を進めている、「みえマルチサポートシステム」や「ディレクター制度」を拡充して取り組む必要がある。
- 競技団体に対する支援を行う際には、強化費の支援を行うだけで順調に強化が進む競技団体もあれば、選手獲得の支援についても注力する必要がある競技団体もあるため、事務局として「仕分け」や「ランク付け」を明確に行い、支援の仕方や対応も分けていく必要がある。
- ラグビーフットボール競技の成年男子を例にとると、県内に日本リーグに参戦しているチームがあるにもかかわらず、東海ブロック大会に所属選手を派遣できていない状況が見受けられる。このようなことがないように、事務局や競技団体がチーム関係者に対して、しっかりと働きかけを行う必要がある。

## (2) 戦略的強化競技の指定と強化について

下記に示す競技については、育成期（H28～30）に開催された、第71～73回国民体育大会において、競技得点を獲得することができなかった競技であることから、戦略的強化競技とし、選手獲得（マッチングを含む）を最重要取組として進めることとします。

- ①ホッケー、②バレーボール、③バスケットボール、④軟式野球、⑤柔道  
⑥ソフトボール、⑦バドミントン、⑧剣道、⑨アーチェリー、⑩クレール射撃  
⑪トライアスロン、⑫空手道

※「三重とわか国体」で実施されない柔剣道及び本県の特長上強化が難しいアイスホッケーは対象外とします。

※ソフトボール、剣道については、選手獲得に係る取組を優先的に行うとともに、重点強化競技としての支援についても併せて行うこととします。

※空手道については、第72回国民体育大会で競技得点を獲得しているものの、「三重とわか国体」では、100点以上の競技得点の獲得が狙えることから、戦略的強化競技とします。

- 剣道競技や空手道競技のような旗判定競技は、開催県が大量得点を獲得しているケースが見受けられる。本県としても先催県と同様の取組を行い、確実に競技得点を獲得する必要があるため、先催県の取組を事務局としてもベンチマーキング等で調査しておく必要がある。
- 団体競技の選手を獲得するためには、指導者や練習環境等の受け入れ態勢がしっかりしていないと難しい。競技団体と対策本部が協力し、指導者の確保や練習環境の整備について早急に取組を進める必要がある。
- 「三重とわか国体」までは、あと3年間しか残されていないため、選手獲得については、課題を洗い出したうえで、早急に取組を進める必要がある。
- 国民体育大会では、入賞件数を増やすことも重要であるが、上位入賞の件数を増やすことが天皇杯・皇后杯の獲得に繋がる。事務局として、入賞ラインギリギリの選手を獲得するのではなく、上位入賞者もしくは上位入賞チームからの選手獲得にこだわってスカウト活動を行う必要がある。
- 競技人数が2～4人の競技については、競技人数が少ないことから、一人一人の選手に係る責任や負担も当然大きくなる。そのような競技においては、絶対的なエースの存在は不可欠であり、日本を代表するような選手や勝負強い選手の獲得が求められる。
- 選手獲得については、単発ではなく、継続的に取り組む必要がある。そのためには、スカウト活動にあたる者は、兼業ではなく、専任とするべきである。
- 皇后杯の獲得するためには、競技レベルが同じであれば、男子選手よりも女子選手を優先して獲得する等、戦略的に取り組む必要がある。
- 選手獲得について成果を収めた先催県の取組をベンチマーキングし、取組に反映する必要がある。
- 東海ブロック大会において、通過数が1/4の競技で通過することは難しいが、通過数が2/4とか3/4の競技については突破の可能性もあるため、それらの競技については重点的に強化を行い、突破率をあげることが必要である。そのためには、事務局として「仕分け」を行ったうえで、競技団体に選手勧誘を働きかけたり、優先的に強化費を充てたりする取組が必要である。

### (3) 戦略的な選手獲得及び受け入れ態勢づくりについて

- ①「三重とこわか国体」における各競技団体の目標得点を明確にするとともに、その実現に向けた選手獲得計画及び戦略プランについて綿密に打ち合わせを行うこととします。
- ②東京オリンピック競技大会を控え、激化する選手獲得に係る取組において成果を挙げるため、各競技担当及びスカウト担当による勧誘活動に注力するとともに、公益財団法人三重県体育協会と協力して、受け入れ態勢づくりを計画的に進めることとします。

- 事務局として、競技団体や種別毎に「仕分け」や「ランク分け」を行い、適切な支援や受け入れ態勢づくりを行っていく必要がある。
- 現在の就職活動の状況は、売り手市場になっている。そのような中、トップアスリートを獲得するためには、学生が魅力を感じる公務員や優良企業における採用枠を準備しておく必要がある。
- 福井県の状況を見ても、学生にとって公務員が魅力的であることは明らかである。天皇杯・皇后杯の獲得のためには、県職員や教員の採用数を増やす必要がある。また、採用数を増やすとともに、講師時間数の確保や服務規程の整理等、受け入れ態勢づくりをしっかりと行う必要がある。
- 県職員や教員の採用数を増やすことができないのであれば、採用する選手の競技レベルを高める必要がある。その点については拘りを持って取組を進めてもらいたい。
- 現行の県職員の採用試験において、トップアスリートを獲得することが難しいのであれば、面接や論文の配点を高くしたり、一次試験にそれらを取り入れる等、やり方を変える必要がある。
- 県職員や教員の採用については、部局毎で検討するのではなく、オール県庁で取組を進めるべきである。
- トップアスリートにとって、三重県が魅力的に映るようにする必要がある。そのためには、支度金なのか、住宅補助なのか、受験の際の旅費なのかを調査する必要がある。
- トップアスリートにとっても競技引退後については不安もあるため、スポーツ指導員で来ていただいた方も本人が希望すれば、本県に残れるような取組を行う必要がある。
- 先催県と比較すると、本県の強化費は少ないように感じる。「三重とこわか国体」までに残された期間を考えると、指導者養成よりも選手強化に予算を充てるべきである。

## 三重県競技力向上対策本部第6回企業等連絡調整専門委員会に係る概要

平成30年10月30日(火)

三重県栄町庁舎第51会議室

## (1) 戦略的な選手獲得及びスカウト活動について

- 選手の競技レベルをしっかりと分析し、どのレベルの選手を獲得するのかを把握しておく必要がある。競技によって必要なレベルは違うので、分類をして視える化をする必要がある。
- 先のことを見越して取組を進める必要がある。スカウト活動においては、大学1年生の頃から行う等の計画的な取組が必要である。また、日頃から大学の指導者や関係者との関係づくりを行うことが重要である。
- スカウト活動には、人脈が大切である。人脈をしっかりと形成するためには、もう少しウエイトを置いて、予算もしっかりとつける必要がある。
- スカウト活動に必要な手土産等の予算を確保する必要がある。
- いい指導者を配置することができれば、いい選手を獲得することができる。自衛隊や大手企業に対しても選手の人事異動についてアプローチする必要がある。
- 指導者や中心的な選手に、シンボリックな人を配置することができれば、戦力補強はスムーズに進むようになる。
- 選手は、いい指導者や強い選手のもとで活動したいと考える。優秀な人材を確保するためには、スカウトは何度も足を運ぶ必要がある。スカウト体制の見直しが必要ではないか。スカウトにあたる人数を増やしたり、スカウトを東京に常駐させたり、東京事務所の人材を活用したりと、かなり踏み込んだ取組が必要なのではないか。
- 愛媛県や福井県等の国民体育大会の先催県では、どのような対応を行っているのかを調査し、三重県も同様の取組を行う必要があるのではないか。
- 企業を回る際には、3つのベネフィットがあると説明を行っている。その3つとは、①社員の一体感の醸成、②トップアスリートには優秀な気質があり、会社にとっては好循環を与える、③地域貢献・社会貢献である。
- 企業がなぜスポーツに力を入れるのかを経営者に理解してもらう必要がある。中小企業においても、スポーツ推進に協力していただく必要はあると思うので三重県庁及び三重県体育協会の職員が汗をかく必要がある。
- 企業の経営者に使命感や危機感を持たせるためには、さらなる説明が必要である。また、指導者の採用についても、協力が必要であれば、バックアップしていきたい。

## (2) 選手の受け入れ環境の整備について

- 経営者にスポーツ選手を雇う大義をしっかりと説明して受け入れてもらう必要がある。
- 県だけではなく、市町も含めて採用依頼を行っていく必要がある。採用枠や採用方法を検討すべきである。あるスポーツに秀でるということは、才能であるため、評価するべきである。
- 選手の採用については、筆記試験だけの判断ではなく、総合的に評価をする工夫をすれば、県民の皆さんへの説明責任にもつながるのではないかと。県や市町での採用は選手にとっては非常に魅力的であるため、その枠を上手に使う必要があると感じている。
- スポーツ選手は、こだわりはあるが非常に素直なので、適応力もある。採用試験の配点を変える等の依頼を行うことはできないのか。
- 「三重とこわか国体」を3年後に控え、三重県の魅力をもっと伝える必要がある。その魅力とは、指導者、練習環境、賃金等である。しかし、その魅力は今の三重県にはないと考えている。三重県代表選手であれば、施設の利用料金を安くする等の取組を行うとともに、もっと広報活動を行っていく必要がある。
- アスジョブみえ通信を、トップアスリート就職支援事業に協力していただいている企業に配布したり、認定証や「とこまる」のマスコットを配布したりして、協力いただいていることをもっとアピールする必要がある。
- 県内・県外に関わらずアンテナショップを設置して、「三重とこわか国体」や「とこまる」のPRを行っていく必要がある。三重テレビ等でも枠をいただいてPRを行ってはどうか。
- クラブチーム支援については、中小企業にとってはやりたくてもやりづらい状況もある。そこに対して県や市町で協力が得られないものか。
- 三重県の取組が遅れた理由の背景には、ブランディングの失敗があるのではないかと。大きなストリームにするためには、先催県における取組を研究して早急に取り組む必要がある。
- ある県の事例を言えば、国体後で採用を打ち切るのではなく、東京オリンピック競技大会までは採用する等の契約をしている県もあるため、三重県としても検討してもらいたい。
- 獲得した選手に対するフォローアップが必要である。採用の段階から選手になるべく負担をかけないように支援する必要がある。

## 三重県競技力向上対策本部第12回競技力向上対策委員会に係る概要

平成31年3月18日

プラザ洞津 高砂の間

## ◇躍進期に向けた競技力向上の取組について

- ・福井国体における福井県の取組は特異性もあることから、準じる必要はない。「三重とこわか国体」で最大のライバルとなり得る東京都の競技力の取組や獲得得点の状況等の分析をしっかりと行い、東京都対策をしっかりと行う必要がある。東京オリンピックをふまえて、東京都の動向や立ち位置を注視していく必要がある。
- ・本県の競技力を向上させるためには、強化費の充当は必須であるが、強化費は県民の皆様からの血税であるため、なんとしても目標達成に向けた取組を計画的に推進し、天皇杯・皇后杯の獲得を達成する必要がある。そのためには、競技団体毎にPDCAサイクルを回すとともに、節目となる大会における各競技団体の進捗状況を視える化し、事務局で客観的に評価を行う必要がある。
- ・体操競技では、月に1度「三重とこわか国体」に向けた競技力向上に係るミーティングを行っているが、指導者や選手の中には「三重とこわか国体」に向けた気運の醸成が図られていない。今後につきましては、選手や指導者の気運の醸成を図るためにも、大会テーマソングを収めたCDやのぼり旗を各競技団体に配布してもらいたい。
- ・「三重とこわか国体」に向けた気運の醸成は十分でないように感じている。今後は、商工会議所所属の大企業やスーパーマーケット等の人が多く集まるようなところでの広報活動も検討してもらいたい。また、観光協会とタイアップする等、戦略的に広報活動も進めてもらいたい。雇用経済部や農林水産部等も巻き込んで、「オール三重」で取り組んでももらいたい。
- ・「三重とこわか国体」開催に向けての気運の醸成は、市町では今一つ盛り上がり欠けているように感じている。また、週末には、学校運動部の活動と成年の三重県選抜チームの活動がバッティングし、施設を計画的に利用することができない状況にある。施設については、優先利用等も含めて検討してもらいたい。
- ・市町では、競技力の向上というよりは大会準備や大会運営に主眼が置かれているように思う。今後、市町での選手採用が進めば、市民の理解も得られやすい。この機会に三重とこわか国体に特化して、県と市長会の連携が深まれば、市町の動きもスムーズになるのではないかと。
- ・国民体育大会に出場する三重県選抜チームの活動については、施設の利用等で優先予約できるというような働きかけを事務局が行う必要があるように



感じている。また、市町への採用依頼についても緩めずに取り組んでいてもらいたい。

- ・ 県民の皆さんに「三重とこわか国体」を周知するために、「三重とこわか国体の日」みたいなものを各月に設定し、ジュニア・少年選手がトップアスリーの練習等を見たり、ともに活動したりする機会が持てるようにすればいいのではないか。
- ・ 「三重とこわか国体の日」が設定されたなら、各市町の庁舎や市役所においてもPRソングを流す等の活動を行うのも面白いのではないか。
- ・ 伊勢市では、トップアスリート招聘事業や体験事業を予算化し、取組を進めているが、どうしても県に比べると取組が遅れている。インターハイも終わり、今後は市町でも国体の取組が加速すると考えられるが、いかに子どもたちや地域に興味関心を植え付けていくかが課題になっている。「三重とこわか国体」において活躍が見込まれる選手や各種事業を県が市町に紹介する等の取組をしていただきたい。
- ・ 就職支援事業については、選手に企業名を出してスカウトする等、前倒しした取組にする必要があるように感じている。また、企業間における待遇の差は、強化費で穴埋めをする等の取組を進める必要があるのではないか。
- ・ スカウト推進担当については、しっかりとした人を当て、獲得予定選手の1.5倍～2倍程度の数はスカウトする必要がある。大企業には、オリンピック競技大会等で活躍するような選手の雇用に努めてもらいたい。市町の中には競技力向上や選手の採用に興味を持っている首長もいるため、ぜひ計画的に首長を訪問し、取組を進めてほしい。私学においてもトップアスリーの採用をお願いしたい。
- ・ 教育委員会における「三重とこわか国体」に向けた盛り上がりが高いように感じている。県外からの入学志願制度で課題となっている前後期枠についてなど教育委員会の支援体制を見直してほしい。三重県選抜チームについては県立学校の施設を積極的に開放してほしいし、施設の修繕等に係る予算についても付けてもらいたい。
- ・ 少年の強化においてはディレクター配置事業を充実させ、マイナー競技の強化を図ってほしい。「三重とこわか国体」の少年種別におけるターゲットエイジの選手を一堂に会するイベントを行い、気運の醸成を図る必要がある。
- ・ 活躍している選手や指導者をメディアで取り上げれば、県民の皆さんの気運の醸成にもつながると感じるので、選手をどう生かしていくかを考え、取組を推進してほしい。

## 平成30年度補正予算の専決処分

## 平成30年度補正予算

## 1 収 入

(単位：千円)

科 目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	説 明
負 担 金	172,908	1,200	174,108	三重県負担金
計	172,908	1,200	174,108	

## 2 支 出

(単位：千円)

科 目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	説 明	
事 業 費	会議費	2,738	0	2,738	
	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	1,500	0	1,500	
	トップジュニア育成事業	3,000	1,200	4,200	対象人数の増 (10人→14人)
	チームみえ国体選手強化事業	86,806	0	86,806	
	トップ選手育成事業	20,425	0	20,425	
	女性アスリートタレント発掘・育成事業	9,602	0	9,602	
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	9,000	0	9,000	
	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	2,000	0	2,000	
	みえのアスリート応援・発信事業	2,822	0	2,822	
	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	35,000	0	35,000	
事務局費	15	0	15		
計	172,908	1,200	174,108		

2019年度競技力向上対策事業

事業名		対象
①	ターゲットエイジ育成・強化事業【リニューアル】	ジュニア・少年選手
	①-1 チームみえジュニア育成事業	
	①-2 ジュニアクラブ・運動部強化指定事業	
	①-3 高等学校運動部強化指定事業	
② チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		
③ トップジュニア育成事業	少年・成年選手共通	
④ 女性アスリートタレント発掘・育成事業		
⑤ トップアスリート応援事業【新規】		
⑥ チームみえ国体選手強化事業【統合】		
⑦ 女性アスリートサポート事業		
⑧ 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	
⑨ 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業		
⑩ トップアスリート就職支援事業		
⑪ スポーツ指導員配置事業	指導者	
⑫ ディレクター配置事業【新規】		
⑬ チームみえ・コーチアカデミーセンター事業		
⑭ 競技用具等整備事業	環境整備	
⑮ みえのアスリート応援・発信事業	広報啓発	

## ターゲットエイジ育成・強化事業 実施方針

2019年度当初予算【75,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体で少年種別の中心となるターゲットエイジ(U18競技:高1~中1 U16競技:中3早生まれ~中1)の育成・強化を図り、関係する競技団体やクラブチーム、学校と連携し、競技力向上を図るとともに、強化活動を支援することで国体後もトップアスリートや指導者として成長し、活躍する選手の強化を行うことを目的とする。

### 2 対象

ターゲットエイジの所属する国民体育大会正式競技である、三重県体育協会加盟の競技団体、三重県高等学校体育連盟に加盟する競技専門部、三重県体育協会に加盟する競技団体に所属する高等学校運動部、三重県高等学校野球連盟に所属する高等学校硬式野球部、県内のジュニアクラブまたは中学校部活動とする。

### 3 実施のねらい

#### (1) ターゲットエイジを一つの塊として強化を図る。

ターゲットエイジとしてのチーム化を図り、徹底的に強化する。上位カテゴリー(日本でトップクラスのU18チームや大学等)との合宿やゲーム環境、海外遠征などの環境を整える。

#### (2) 個の強化を図る。

将来のトップアスリートを目指し、三重とこわか国体におけるチームの核となる選手を育成する。特に高校に進学した選手のポテンシャルを最大限に引き出すため。国内トップクラスの大学や実業団、プロチーム等への派遣を視野に入れた強化を行う。

#### (3) 他県の現状を調査・分析する。

全国大会を視察し、他県の戦力分析を行う。また、同時に県外からのターゲットエイジの選手補強を視野に入れる。

### 4 実施内容

#### (1) 上位カテゴリー(日本でトップクラスのU18チームや大学等)と定期的な合同強化練習またはトレーニングマッチを計画する。また長期休業期間における上位カテゴリー合宿やゲーム環境、海外遠征を計画する。

- (2) 高校に進学した選手の個の育成を図るため、週休日や長期休業中において国内トップクラスの大学や実業団、プロチーム等へ一定期間派遣するための計画を行う。
- (3) 全国総体、国体、選抜大会、全中、ジュニア日本選手権等の大会にスタッフを派遣する計画を行い、他県の現状を調査・分析する。

## チームみえジュニア育成事業 実施方針

2019年度当初予算【40,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体における少年種別の選手及び三重とこわか国体後も活躍が期待できる選手を「チームみえジュニア」とする。チームみえジュニアの強化・育成を目指し、その活動を支援することで、三重とこわか国体における少年種別での得点獲得及び長期的な競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟の国民体育大会正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体が取り組む、「チームみえジュニア」の活動を支援するため、必要な経費を配分する。
- (2) 強化費の配分については、各競技団体の強化計画と競技実績に応じた配分をする。その他、必要に応じてヒアリング等により調整を行う。
- (3) チームみえジュニアの育成・強化に対して実施する強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

- |      |           |
|------|-----------|
| 4月   | 強化費の配分額決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援    |

## ジュニアクラブ・運動部強化指定事業 実施方針

2019年度当初予算【10,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体において、少年種別の中心となる選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援し、競技力の向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

2021年三重とこわか国体の正式競技で、少年種別の中心となるターゲットエイジ（高校1年生を含む）が在籍する県内のジュニアクラブ・運動部とする。

### 3 実施内容

- (1) 強化指定の決定については、別途定める「ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、2019年4月から2020年3月までの単年度指定とする。
- (3) 全国大会での活躍を目的とした三重とこわか国体少年種別の候補となる選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

4月	ジュニアクラブ・運動部強化指定の決定
5～3月	強化活動支援

## ジュニアクラブ・運動部強化指定事業選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「ジュニアクラブ・運動部強化事業」に係る指定ジュニアクラブ・運動部を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

- ① 2021年三重とわか国体における少年種別において、三重県競技力向上対策本部が強化指定をすることで競技得点の獲得が見込めるジュニアクラブ・運動部。
- ② 2021年三重とわか国体における少年種別において、各競技団体がターゲットエイジの強化拠点として位置づけており、チームの中心となる有望な選手が属するジュニアクラブ・運動部。
- ③ 過去3年間程度において、全国中学生大会入賞等の実績を残すとともに、国民体育大会で活躍する選手を輩出しているジュニアクラブ・運動部。

#### (2) 選考方法

選考委員は、指定候補のジュニアクラブ・運動部について、三重とわか国体における少年種別の候補となる選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。



2019年度強化指定ジュニアクラブ・運動部

競技（種目）	ジュニアクラブ・運動部
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校陸上競技部
水泳（飛込）	三重ダイビングクラブ
水泳（A S）	みえA. S. C
テニス	三重グリーンテニスクラブ
ボート	宮川ボートクラブ
体操（競技）	相好体操クラブ
レスリング	いなベレスリングクラブ
ウエイトリフティング	みえウエイトリフティングジュニアクラブ
ソフトボール	度会町立度会中学校ソフトボール部
卓球	松生TTC
相撲	津相撲クラブ
フェンシング	鳥羽フェンシングクラブ
スポーツクライミング	KO-WALL三重
なぎなた	三重武道館クラブ
ボウリング	鈴鹿ジュニアボウリングクラブ

15クラブ

## 高等学校運動部強化指定事業 実施方針

2019年度当初予算【25,000千円】

### 1 目的

国民体育大会などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

次のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

- ①指定期間は、三重県競技力向上対策基本方針に基づき、次の3期とする。
  - ・第1期：平成26年度～平成27年度（基盤・体制づくり期）
  - ・第2期：平成28年度～平成30年度（育成期）
  - ・第3期：2019年度～2021年度（躍進期）
- ②指定を受けた高等学校運動部は、原則として、最終年度まで継続して指定し、各期の最終年度に、見直すこととする。
- ③指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。
- ④硬式野球競技については、単年度の指定とする。

#### (2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議したうえで、次のように指定する。

- ①指定候補について、活動状況や国体強化の中心となる位置づけ、ターゲットエイジの活動が見込める運動部かを判断する。  
なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。
- ②指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連及び県競技団体等と協議のうえ、指定することができる。

なお、硬式野球競技については、県高野連から、平成31年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部の推薦を受け、対策本部が県教委と協議したうえで、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定する。

③強化活動の支援の配分については、指定決定後、競技力向上対策本部が活動状況、2019年度の国民体育大会における有力選手の状況、ターゲットエイジの状況を調査したうえで2019年4月に決定する。

### (3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費に対する補助を予算の範囲内で行う。

## 4 年間計画

3月下旬	強化指定運動部の決定
4～5月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

## 高等学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領

### 1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下、「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下、「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下、「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

### 2 推薦基準

- (1) 三重とこわか国体を中心に活躍するトップアスリートの育成に向けて、少年種別における強化の中心となることが期待できる高等学校運動部であること。
- (2) 硬式野球競技については、平成31年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部であること。

### 3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部（以下、「対策本部」という。）に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、実態として男女別々に活動している場合は男子・女子を区分し、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。
- (5) 硬式野球競技については、県高野連が1部を上限に、対策本部に推薦する。

2019年度高等学校強化指定運動部

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	宇治山田商業	
		四日市工業	松阪商業
		近大高専	
		伊賀白鳳	
2	水泳(競泳)	皇學館	
		津田学園	
		尾鷲	
		—	—
2	水泳(飛込)	—	—
		四日市中央工業	—
		稲生	—
		—	—
2	水泳(水球)	—	—
		—	—
		—	—
		—	—
2	水泳(AS)	—	—
		—	—
		—	—
		—	—
3	サッカー	四日市中央工業	—
4	テニス	四日市工業	四日市商業
5	ボート	—	—
6	ホッケー	—	白子
7	ボクシング	久居	—
		明野	—
8	バレーボール	松阪工業	津商業
		—	三重
9	体操(競技)	暁	
		—	—
9	体操(新体操)	—	—
		—	—
10	バスケットボール	四日市工業	四日市商業
		津工業	いなべ総合学園
11	レスリング	いなべ総合学園	
		朝明	—
12	セーリング	津工業	
13	ウエイトリフティング	亀山	
		四日市工業	—
		四日市中央工業	—
14	ハンドボール	四日市工業	四日市商業
15	自転車	朝明	—
16	ソフトテニス	三重	三重
17	卓球	高田	高田
		白子	白子
18	相撲	宇治山田商業	—
19	馬術	高田	
20	フェンシング	海星	津東
21	柔道	四日市中央工業	高田
		名張	名張
22	ソフトボール	四日市工業	伊勢学園
		—	津商業
23	バドミントン	伊勢工業	皇學館
		暁	—
24	弓道	松阪工業	亀山
25	ライフル射撃	久居	
26	剣道	三重	白子
27	ラグビーフットボール	朝明	四日市メリノール学院
		四日市工業	—
28	スポーツクライミング	—	—
29	カヌー	桑名西	
30	アーチェリー	四日市四郷	
31	空手道	—	四日市商業
32	銃剣道	皇學館	—
33	クレー射撃	—	—
34	なぎなた	—	稲生
35	ボウリング	—	—
36	ゴルフ	津田学園	
37	スケート	—	—
38	アイスホッケー	—	—
39	スキー	—	—
40	軟式野球	高田	—
41	硬式野球	菰野	—

計

32校69部

## チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針

2019年度当初予算【1,500千円】

### 1 目的

三重とこわか国体における少年種別の選手となる小・中学生及び三重とこわか国体後も活躍が期待できる小・中学生を「チームみえジュニア」として指定して、ジュニア選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、ジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手とその指導者・保護者とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定証の交付

指定するジュニア選手に対し、三重県競技力向上対策本部長（知事）から、「チームみえジュニア指定証」を交付する。

#### (2) 研修プログラム

##### ①全体会

・「チームみえジュニア」としての意識醸成を目的とした研修を実施する。

##### ②研修会

〔ジュニア選手・指導者対象〕

・選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

〔保護者対象〕

・ジュニア選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

### 4 年間計画

6～7月 「チームみえジュニア指定証」交付式、研修会の開催

## トップジュニア育成事業 実施方針

2019年度当初予算【4,500千円】

### 1 目的

県民からの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる本県の中学校及び高等学校に在籍する選手および本県出身の19歳以下の選手\*1とする。

### 3 実施内容

#### (1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生、高校生および本県出身の19歳以下の選手\*1を強化指定する。

#### (2) 補助対象

指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設利用料、大会参加料、消耗品費、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

4月から随時	寄附金の募集
6月	第1次強化指定選手の推薦・選定・決定
9月	第2次強化指定選手の推薦・選定・決定

\*1) その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」  
指定候補選手推薦要領

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手および本県出身の 19 歳以下の選手\*<sup>1</sup>とする。

2 推薦基準

全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準のいずれかを満たしている選手とする。

【中・高校生枠】(本県の中学校および高等学校に在籍する選手)

- (1) 2018 年度もしくは 2019 年度の全国大会\*<sup>2</sup>で優勝、または、2018 年度の国際大会\*<sup>3</sup>で 3 位入賞以上の実績があり、2019 年度に日本代表として国際大会\*<sup>3</sup>への出場が決定(内定)している選手。
- (2) 団体競技は、2019 年度に日本代表として、国際大会\*<sup>2</sup>に出場するなど、顕著な活躍が見られる選手。
- (3) この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

【U20 枠】(本県の中学校もしくは高等学校を卒業した 19 歳以下の選手\*<sup>1</sup>)

- (1) 2018 年度に開催された全日本選手権大会において 3 位以上の成績を収めた選手。
- (2) 2018 年度に開催された全国高等学校総合体育大会および国民体育大会において優勝した選手。
- (3) 2018 年度に開催された国際大会\*<sup>2</sup>で 3 位以上の成績を収めており、かつオリンピックや三重とこわか国体において入賞が狙える。
- (4) この他、特に顕著な実績を収めた場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。



\* 1) その年度の4月1日時点の年齢とし、原則として、学生アスリートとする。但し、JOCエリートアカデミー出身者は、本県の小学校を卒業した者とする。

\* 2) 全国大会

- ① 国民体育大会
- ② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
- ③ 全国高等学校総合体育大会  
全国高等学校選抜選手権大会
- ④ ①・②・③と同じレベルと認められる大会

\* 3) 国際大会

- ① 世界ジュニア・ユース大会、  
アジアジュニア・ユース大会
- ② ①と同じレベルと認められる大会

### 3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たした選手を、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目は、上記2の推薦基準を満たした選手を、所属する団体（クラブチーム等）が、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

### 4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

## 女性アスリートタレント発掘・育成事業 実施方針

2019年度当初予算【10,000千円】

### 1 目的

優れた資質を有する女子小中学生を発掘し、様々なプログラムを通じて育成することで、国民体育大会をはじめとした国内大会やオリンピック、ワールドカップなどの国際大会において活躍することができるアスリートの輩出を目的とする。

また、トップアスリートに必要な資質である高い意識や行動力を培うことで、社会生活の様々な場面でリーダーとして活躍できる人材として育成を図ることを目的とする。

### 2 対象（競技）

第71回岩手国体以降の女子種別において、新たに正式種目になった競技のうちの2競技とする。

### 3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が県関係者、市町関係者、スポーツ団体関係者、学識経験者、競技団体関係者（中央競技団体、県競技団体）、日本スポーツ振興センター等と連携した運営委員会を行うとともに、プログラム部会と選考部会を行う。
- (2) 運営委員会にて、事業の内容及び計画及びタレントの選考等を決定する。
- (3) プログラム部会にて、育成プログラムの内容及び計画等を決定する。
- (4) 選考部会にて、オーディションの実施及びタレントの選考原案の作成を行う。
- (5) 実施競技団体は事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

### 4 年間計画

6月	運営委員会、プログラム委員会
7月	タレントの募集開始（～9月末日）
10月～11月	1次、2次オーディション実施
12月	選考部会、プログラム部会、運営委員会 「年間事業計画の決定」「タレントの決定」
1月	認定証授与式
	※週2～3回程度の専門プログラムの継続実施
	※年20コマ程度の教育・育成プログラムの継続実施

## トップアスリート応援事業「三重県民共済基金」 実施方針

2019年度当初予算【3,800千円】

### 1 目的

三重とこわか国体をはじめとする全国大会で活躍するという強い意志を持って、三重県内の高等学校に入学した少年選手に対し給付金を支援することで、安定した強化活動を支えることを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むとともに、三重とこわか国体や今後の三重県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待でき、県外から三重県への転入をともなって2019年4月に三重県内の高等学校に入学した選手。

### 3 実施内容

#### (1) 対象選手の推薦募集

各競技団体は、別紙推薦要領に基づき対象選手を推薦することができる。推薦をする競技団体は、必要書類を三重県競技力向上対策本部事務局に提出する。

#### (2) 対象選手の選考

選考については、各競技団体からの提出書類を基に、三重県競技力向上対策本部に設置する選考委員会において行う。なお、選考委員については、三重県競技力向上対策本部事務局が委嘱する。

#### (3) 給付金の給付

給付金の給付は、三重県民共済生活協同組合からの寄付金による「三重県民共済基金」を財源に実施する。給付金は月額制とし、2019年4月から1年間給付する。

### 5 年間計画

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 3月 | 競技団体を通じて対象選手を募集                    |
| 4月 | 選考委員会において対象選手を選考<br>認定証授与式<br>給付開始 |

2019年度トップアスリート応援事業「三重県民共済基金」指定選手  
推薦要領

1 対象

三重とこわか国体で実施される正式競技に、意欲や熱意をもって取り組むとともに、三重とこわか国体や今後の三重県における競技スポーツ推進の担い手として貢献することが期待できる選手。県外から三重県への転入をともなって2019年4月に三重県内の高等学校に入学する選手。

2 推薦基準

三重とこわか国体をはじめとする全国大会において少年種別の中心選手として、活躍が期待できる選手とする。

- (1) 三重とこわか国体で実施される少年種別の正式種目の選手であり、競技力向上対策本部が指定する強化指定高等学校(運動部)に県外から三重県への転入をともなって、2019年4月に入学する選手。
- (2) 三重とこわか国体における目標達成に向けて、各競技団体に必要な選手であり、今後の競技力向上が見込める選手。
- (3) 三重とこわか国体に向けて意欲的に取り組むことができる選手。

3 募集人数

10名程度

4 推薦方法

各競技団体は、上記2の推薦基準を満たす選手を、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

5 その他

選手の選考については、各競技団体から推薦があった選手の中から、選考委員会が行う。

## チームみえ国体選手強化事業 実施方針

2019年度当初予算【187,000千円】

### 1 目的

躍進期の目標である天皇杯得点1,400点～1,800点、天皇杯10位以内を達成するため、活躍が期待できる本県代表選手(チームみえ)に対し、重点的な強化に取り組むことを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

### 3 実施内容

- (1) 各競技団体の強化計画書及び競技団体ヒアリングを基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) A・B群に区分された競技種別に対して、茨城国体における競技成績の見込や強化計画等に基づき、重点的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) C・D群に区分された競技種別に対して、三重とこわか国体に向けた強化計画や年度目標等に基づき、計画的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (4) 支援期間は一年間とするが、東海ブロック大会後、本国体後に必要に応じて強化計画の見直しを行う。
- (5) 各競技団体は、三重とこわか国体に向けた各年次の目標が達成できるよう、計画的・戦略的に強化活動を進めることとする。
- (6) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費、全国トップレベルのチームの招聘に係る経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費とする。

### 4 年間計画

- |       |   |
|-------|---|
| 4月    | 配分額の通知、交付申請書の提出<br>実施事業の支援(4月～東海ブロック大会～本国体) |
| 7～10月 | 国体の競技成績による強化計画の見直し<br>実施事業の支援(本国体～3月)       |

※ 区分について

群	区分の目安	取組
A群	安定して得点しており、三重とこわか国体まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を行います。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、茨城国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を行います。
C群	三重とこわか国体で確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	三重とこわか国体に向けた計画的な取組を行います。
D群	強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	強化体制を整え、鹿児島国体から勝負できる取組を行います。

## 女性アスリートサポート事業 実施方針

2019年度当初予算【700千円】

### 1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性特有の諸課題について女性アスリート、指導者及び保護者など関係者が知識習得や意識向上を図ることで、サポート体制の構築を図ることを目的とする。

### 2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体およびその団体に所属する女性アスリート、指導者及び保護者等とする。  
(新たに正式競技として導入される競技を含む。)

### 3 実施内容

女性アスリート、指導者及び保護者向けの研修会を開催し、女性アスリートが継続して競技に取り組むうえでの不安や悩みの解消に繋がる知識習得や意識向上を図る。

### 4 年間計画

5月～2月 女性アスリート、指導者、保護者向けの研修会を実施

## 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針

2019年度当初予算【15,000千円】

### 1 目的

三重とこわか国体において、天皇杯・皇后杯を獲得するため、2021年に各競技の成年種別で中心となり、2019年の茨城国体以降に活躍が期待できるチームの指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図ることを目的とする。

### 2 対象

国民体育大会の正式競技に取り組んでいる大学運動部、企業・クラブチーム等（以下、「チーム」という。）とする。

### 3 実施内容

#### (1) 指定期間

2019年4月から2020年3月までの期間とする。

#### (2) 指定基準

三重とこわか国体に向けて、競技団体が強化の中心として位置づけ、国民体育大会での活躍が期待できるチーム。ただし、次の①～③に該当するチームで、競技団体が主体となるチームを除く。

- ①団体競技（チームスポーツ）は、国民体育大会（東海ブロック大会を含む）のエントリー数の半数以上を占めているチーム。
- ②団体競技（チームスポーツを除く）は、団体チームのレギュラー選手として大会に出場している選手が在籍するチーム。
- ③個人競技は、複数の選手が在籍するチーム。

#### (3) 指定方法

強化指定チームについては、三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行ったうえで、三重県競技力向上対策委員会において決定する。

#### 【A強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、2019年の茨城国体において入賞できるチーム。

#### 【B強化指定】

三重とこわか国体で中心となり、2019年の茨城国体において入賞が期待できるチーム。

#### 【C強化指定】

- ①三重とこわか国体で中心となり、三重とこわか国体において入賞が期待できるチーム。
- ②国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、前年度に新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチーム。

#### (4) 補助対象

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認められた経費の支援を予算の範囲内で行う。

### 4 年間計画

5月 指定証交付  
随時 強化活動支援



報告事項8-8-2  
 平成31年3月18日  
 第12回競技力向上対策委員会決定

2019年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定チーム

【A強化指定】

	チーム名	競技名
1	NTN陸上競技部	陸上競技
2	伊賀フットボールクラブくノ一	サッカー
3	三重バイオレットアイリス	ハンドボール
4	名張乗馬クラブ	馬術
5	北勢ライディングファーム	馬術
6	PEARLS	ラグビーフットボール
7	相好体操クラブ	体操

【B強化指定】

	チーム名	競技名
8	AGF陸上競技部	陸上競技
9	デンソー女子陸上長距離部	陸上競技
10	株式会社安永弓道部	弓道
11	エクセディ卓球部	卓球

【C強化指定】

	チーム名	競技名
12	ヴィアティン三重	バレーボール
13	みえ高田VCsala	バレーボール
14	三重県警察（ライフル射撃）	ライフル射撃
15	三重県警察（剣道）	剣道
16	名鉄乗馬クラブ・クレイン東海	馬術

## 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 実施方針

### 2019年度予算【2,300千円】

#### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、東京オリンピック競技大会及び三重とこわか国体等に向けた成年選手の競技力向上を推進することを目的とする。

#### 2 対象

三重とこわか国体における正式競技に取り組んでいる20歳以上の大学生（大学院生を含む）で、次に掲げる条件を満たす者とする。

- (1) 「チームみえ」の一員として、三重とこわか国体での活躍が特に期待できる者
- (2) 東京オリンピック競技大会や世界選手権大会等の世界大会での活躍が期待できる者

ただし、東京オリンピック競技大会の正式競技以外の競技に取り組んでいる選手については、条件（1）のみを満たすこととする。

#### 3 実施内容

- (1) 強化指定選手の決定については、別途定める「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定については、2019年4月から2020年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

#### 4 年間計画

- 4月 強化指定選手の選考及び決定
- 5月 強化指定証交付
- 随時 強化活動支援

## 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業 選考要領

### 1 目的

この要領は、三重県競技力向上対策本部が「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業」に係る強化指定選手を選考するために、必要な事項を定めるものとする。

### 2 選考

選考は、三重県競技力向上対策本部事務局の原案に基づき、三重県競技力向上対策委員会の委員が行うものとする。

#### (1) 選考基準

選考は、「東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業実施方針」の目的及び対象を踏まえることとし、選考にあたっては、次の点に留意するものとする。

なお、大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業の指定チームに所属する者、企業等に勤務している者については対象外とする。

#### 【継続指定枠】

2018年度に指定を行った者で、三重県代表選手の一員として2019年茨城国体（以下、「茨城国体」という。）以降の大会において入賞が見込める者

#### 【新規指定枠】

- ① 2018年度に開催された全日本選手権大会において3位以上の成績を収めた者で、三重県代表選手の一員として茨城国体以降の大会において入賞が見込める者
- ② 上記大会より上位の大会において、顕著な成績を収めた者についても選考の対象とする。

#### (2) 選考方法

選考委員は、強化指定候補選手について、三重とこわか国体や東京オリンピック競技大会等での活躍が期待される強化指定候補選手の実績や今後の活躍を総合的に判断し、選考を行うこととする。

なお、決定には、選考委員の過半数の同意を必要とする。

報告事項8-9-3  
 平成31年3月18日  
 第12回競技力向上対策委員会決定

2019年度東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業に係る強化指定選手

	名前	年齢 (学年)	所属	専門競技	指定枠
1	向田 真優	21 (4年)	至学館大学	レスリング	継続
2	山門 正宜	25 (D2年)	名古屋産業大学院	ウエイトリフティング	継続
3	山本 真鼓	22 (M1年)	名古屋産業大学院	ウエイトリフティング	継続
4	石井 未来	21 (4年)	東京国際大学	ウエイトリフティング	継続
5	城山 聖羅	21 (4年)	東洋大学	相撲	継続
6	島袋 将	21 (4年)	早稲田大学	テニス	新規
7	奥野 春菜	20 (3年)	至学館大学	レスリング	新規

※年齢・学年は平成31年4月1日現在

## トップアスリート就職支援事業 実施方針

2019年度当初予算【14,500千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）に対し、県内企業等への就職支援を行い、成年種別における競技得点を確保することで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

### 2 対象選手

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいる選手またはその指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技・団体競技ともに8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。

※成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリート等を採用する意思のある企業等とする。

### 4 実施内容

- (1) 三重とこわか国体に向けた成年選手強化に係る取組を県内企業に説明し、トップアスリート等の採用依頼を行う。
- (2) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (3) 競技団体から推薦のあったトップアスリート等に対し、書類審査を行う。
- (4) 社業と競技活動の両立が図られるよう、トップアスリート等に対し、面談を行う。
- (5) 企業及びトップアスリート等に有益なマッチングが図られるよう、調整を行う。
- (6) 企業及びトップアスリート等に推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (7) 採用選考の調整を行う。
- (8) トップアスリート等が培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

### 5 年間計画

4月以降、随時、実施内容の取組を進めることとする。

## スポーツ指導員配置事業 実施方針

2019年度当初予算【182,720千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートまたはその指導者（以下、「トップアスリート等」とする。）を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣することで、本県選手の競技力向上を図ること、また、トップアスリート等として成年種別の競技得点を獲得することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体の正式競技に取り組んでいるトップアスリート等で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会において、個人競技は3位以上、団体競技は8位以上の成績を収めた成年選手またはその指導者

※本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。  
※選手としての成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

### 3 実施内容

- (1) スポーツ指導員の採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 三重県体育協会は、スポーツ指導員の勤務管理を行うとともに、本県選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣する。
- (3) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

### 4 年間計画

- |     |                      |
|-----|----------------------|
| 4月  | 協定書の締結               |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿等に派遣 |

## ディレクター配置事業 実施方針

2019年度当初予算【5,000千円】

### 1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍実績のある指導者をディレクターとして競技団体に配置し、成年種別の戦力補強を計画的に推進することで、三重とこわか国体において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

### 2 対象

三重とこわか国体における正式競技の指導者で、次に掲げる条件を満たし、採用後は「チームみえ」の一員として成年種別の戦力補強を計画的に推進する能力を有する者とする。

全国・国際スポーツ大会で活躍実績のある指導者で、成年選手獲得に係る指導・助言や成年選手の推薦、強豪大学や実業団チームとのネットワークづくり等の業務にあたることができる者

### 3 実施内容

- (1) ディレクターの採用については、三重県競技力向上対策本部及び三重県体育協会が協議を行ったうえで決定する。
- (2) 三重県体育協会は、ディレクターの業務管理を行うとともに、各競技団体における成年種別の戦力補強を計画的に推進するため、ディレクターを競技団体が実施する強化練習や合宿、会議等に派遣する。
- (3) ディレクターの活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

### 4 年間計画

- |     |                          |
|-----|--------------------------|
| 4月  | 契約書の締結                   |
| 4月～ | 競技団体が実施する強化練習や合宿、会議などに派遣 |

## チームみえ・コーチアカデミーセンター事業 実施方針

2019年度当初予算 【63,967千円】

### 1 目的

三重とこわか国体における天皇杯・皇后杯の獲得やその後の安定的な競技力の確保のため、少年種別の競技力向上にむけた指導者の指導力の向上や意識改革を図るとともに、その指導を多面的に支える指導体制の構築を図ることを目的とする。

### 2 対象

公益財団法人三重県体育協会加盟団体のうち国民体育大会の正式競技で、三重とこわか国体の監督等主たる指導者として競技団体の長より認定された者とする。

### 3 実施内容

#### (1) みえコーチアカデミー【共通】

- ①三重とこわか国体に向けた強化戦略プランの作成
- ②国内トップクラスの講師を招聘した研修やディスカッション等
- ③県外研修による優秀指導者実践観察等
- ④県内指導者の運動観察・実践指導・ディスカッション及び有識者による指導助言
- ⑤プレゼンテーション及びディスカッション（※2期生のみ）
- ⑥各競技団体における指導体制等の分析や強化戦略の課題に対する指導助言（カンファレンス）

#### (2) みえマルチサポートシステム【共通】

実践指導における指導体制上の課題の解決に向けた様々なサポートの実施と検証

#### (3) みえコーチングコミュニティ【1期生】

強化戦略プランの進捗や成果、最新の情報等の相互発信と共有

### 4 年間計画

4月～	【1期生】	みえマルチサポートシステムによる支援
5月	【2期生】	スタートアップミーティング
5月～	【2期生】	みえマルチサポートシステムによる支援
7月	【2期生】	キャンプⅠ
	【1期生】	ブラッシュアップミーティングⅠ
年2回程度	【共通】	県内研修 運動観察・実践指導
年1回	【共通】	県外研修
11月	【2期生】	キャンプⅡ
	【1期生】	ブラッシュアップミーティングⅡ
3月	【2期生】	コンプリートミーティング
通年	【共通】	ホームワークによるカンファレンス



## 競技用具等整備事業 実施方針

2019年度当初予算【81,645千円】

### 1 目的

三重とわか国体に向けて競技力向上を図るとともに、大会終了後の全国大会等において安定した競技力を確保するため、強化活動に必要な競技用具等を整備することを目的とする。

### 2 整備対象競技

本事業により、競技用具等を整備する競技は、国民体育大会における正式競技とする。

### 3 整備対象競技用具等

- (1) 競技力向上に必要と認められるもの。
- (2) 選手が大会等で直接的に使用するもの。
- (3) 高額等の理由により、個人や競技団体に整備することが困難なもの。
- (4) 競技用具等が整備されておらず、新たに整備する必要があるもの。
- (5) 既存の競技用具等が、規格外、老朽化、性能不足等の理由により、改めて整備する必要があるもの。
- (6) 競技力向上のために数が不足しているもの。

### 4 実施内容

- (1) 前出要件を満たす競技用具等の整備を希望する競技団体は県に申請を行う。
- (2) 県は競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、選定委員会において適当と認められた競技用具等を購入する。
- (3) 競技団体に対して県が購入した競技用具等を貸し付ける。
- (4) 貸し付けした競技用具等について、競技団体は責任を持って管理するとともに、引渡し、維持、修繕及び返納に要する費用を原則負担する。

## みえのアスリート応援・発信事業 実施方針

2019年度当初予算【3,500千円】

### 1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成することを目的とする。

### 2 実施内容

#### (1) 広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

〔配布先〕

- ・県内の小・中・高等学校の児童生徒
- ・県内のスポーツ関連施設
- ・イベント等

#### (2) チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・県代表選手及びスタッフユニフォーム等
- ・応援用グッズ等

### 3 年間計画

6月	「輝くみえのアスリートNEWS」発行
5～9月	チームみえ啓発グッズ等作成
11月	「輝くみえのアスリートNEWS」発行

# 審 議 事 項



## 平成30年度事業報告書（案）

## 1. 会議の開催と審議、協議の内容について

開催年月日	会議名	主な審議、協議内容
平成30年 4月16日	第6回本部会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員及び委員等の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等の開催経過（報告）</li> <li>・第9回、第10回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第72回国民体育大会 総合成績（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策委員会における審議決定事項（報告）</li> <li>・平成29年度事業報告、収支決算</li> <li>・平成30年度事業計画、収支予算</li> </ul>
10月23日	第6回成年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会（福井しあわせ元気国体）の結果（報告）</li> <li>・平成30年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上対策事業の取組について（協議）</li> </ul>
10月30日	第6回企業等連絡調整専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会（福井しあわせ元気国体）の結果（報告）</li> <li>・平成30年度の競技力向上対策事業（成年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上対策事業の取組について（協議）</li> </ul>

10月31日	第6回ジュニア・少年選手強化専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部第10回競技力向上対策委員会の概要（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会（福井しあわせ元気国体）の結果（報告）</li> <li>・平成30年度の競技力向上対策事業（ジュニア・少年選手）の進捗状況（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会結果及び平成30年度競技力向上対策事業を踏まえた三重とこわか国体に向けての取組について（協議）</li> </ul>
11月16日	第11回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の変更（報告）</li> <li>・三重県競技力向上対策本部会議等に係る開催経過（報告）</li> <li>・平成30年度競技力向上対策事業の進捗状況（報告）</li> <li>・競技力区分による得点見込と獲得得点及び対策関連事業執行等（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会に係る総合成績（報告）</li> <li>・第73回国民体育大会三重県選手団に係る入賞一覧（報告）</li> <li>・躍進期における競技力向上の取組について（協議）</li> </ul>
平成31年 3月18日	第12回競技力向上対策委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県競技力向上対策本部等に係る開催経過（報告）</li> <li>・平成30年度競技力向上対策事業に係る実施報告及び成果（報告）</li> <li>・2019年度競技力向上対策事業（案）について（審議）</li> <li>・躍進期における競技力向上の取組について（協議）</li> </ul>

## 2. 選手の育成・強化について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成30年4月 ～ 平成31年3月	チームみえジュニア指定、 指導者・保護者研修プロ ラム事業	将来活躍が期待できるジュニアアスリート 707名を「チームみえジュニア」として指 定し、選手や指導者・保護者への研修会を実 施 ・チームみえジュニア指定証交付式 平成30年6月24日（日） ・鈴鹿医療科学大学白子キャンパス
平成30年6月 ～ 平成31年3月	トップジュニア育成事業	世界大会等で活躍するジュニア選手14名 （中高生枠：11、U20枠：3）を「チームみ えスーパージュニア」として指定し、強化活 動を支援
平成30年4月 ～ 平成31年3月	チームみえ国体選手強化 事業	福井国体において男女総合成績10位台 獲得と総合得点1,100点をめざし、入賞 が期待できる競技団体の強化活動を支援
平成30年4月 ～ 平成31年3月	トップ選手育成支援事業	競技団体が行う年間を通じた選手の強化活 動や競技の普及活動等を支援
平成30年4月 ～ 平成31年3月	女性アスリートタレント 発掘事業	優れた資質のあるジュニア選手を発掘し、教 育プログラムや専門プログラムを実施し、世 界大会で活躍する選手を育成
平成30年4月 ～ 平成31年3月	大学運動部、企業・クラブ チーム強化指定事業	〔 A 強化指定チーム 〕 ・AGF陸上競技部 ・NTN陸上競技部 ・デンソー女子陸上長距離部 ・伊賀フットボールクラブくノ一 ・相好体操クラブ ・三重バイオレットアイリス（ハンドボール） ・名張乗馬クラブ ・北勢ライディングファーム（馬術） ・株式会社安永弓道部 ・PEARLS（ラグビーフットボール）  〔 B 強化指定チーム 〕 ・エクセディ卓球部

		〔 C 強化指定チーム 〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴィアティン三重 (バレーボール)</li> <li>・みえ高田VCsala</li> <li>・三重県警察 (ライフル射撃)</li> <li>・三重県警察 (剣道)</li> <li>・名鉄乗馬クラブクレイン東海 (馬術)</li> <li>・皇學館大学柔道部</li> </ul>
平成30年4月 ～ 平成31年3月	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	世界大会で活躍が期待できる成年選手6名を強化指定し、強化活動を支援

### 3. 指導者の養成について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成30年4月 ～ 平成31年3月	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	1期生23名を対象に、三重とこわか国体及び安定期における競技力の確保をめざし、指導者の指導力の向上と指導体制を構築する事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートアップミーティング</li> <li>・キャンプⅠ、Ⅱ</li> <li>・コンプリートミーティング</li> <li>・県外研修、県内研修</li> <li>・みえマルチサポートによるサポートスタッフの派遣</li> </ul>

### 4. 広報・顕彰について

実施時期	競技力向上の取組	具体的取組
平成30年4月 ～ 平成31年3月	みえのアスリート応援・発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙「輝くみえのアスリートNEWS」の配布 (各種会議、中学校、イベント配布)</li> <li>「三重から発信！未来のトップアスリート応援募金」チラシの配布 (各種企業・団体、各種会議、イベント配布)</li> </ul>



## 平成30年度収支決算書(案)

## 1 収入

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	説明
負担金	172,908,000	1,200,000	174,108,000	165,647,477	△ 8,460,523	三重県負担金
雑収入	0	0	0	4,719	4,719	四日市市からの過年度戻入金
計	172,908,000	1,200,000	174,108,000	165,652,196	8,455,804	

## 2 支出

(単位:円)

科目	当初予算額	補正予算額	補正後予算額	決算額	補正予算額との増減	説明	
事業費	会議費	2,738,000	0	2,738,000	2,204,791	△ 533,209	
	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	1,500,000	0	1,500,000	1,491,311	△ 8,689	
	トップジュニア育成事業	3,000,000	1,200,000	4,200,000	4,200,000	0	対象人数の増 (10人→14人)
	チームみえ団体選手強化事業	86,806,000	0	86,806,000	86,803,714	△ 2,286	
	トップ選手育成事業	20,425,000	0	20,425,000	20,419,515	△ 5,485	
	女性アスリートタレント発掘・育成事業	9,602,000	0	9,602,000	7,063,239	△ 2,538,761	国際交流プログラム関連費の減等
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	9,000,000	0	9,000,000	8,984,820	△ 15,180	
	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	2,000,000	0	2,000,000	1,809,940	△ 190,060	
	みえのアスリート応援・発信事業	2,822,000	0	2,822,000	2,521,790	△ 300,210	
チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	35,000,000	0	35,000,000	30,147,124	△ 4,852,876	受講者の減 (23名→22名) マルチサポート事業関連費の減等	
事務局費	15,000	0	15,000	5,952	△ 9,048		
計	172,908,000	1,200,000	174,108,000	165,652,196	△ 8,455,804		

# 監 査 報 告

平成30年度収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。


平成 31 年 4 月 12 日

監 事

紀平益美 

平成 31 年 4 月 12 日

監 事

天野晴夫 

三重県競技力向上対策本部

本部長 鈴木 英敬 様

## 2019年度競技力向上対策事業(案)

	事業名	対策本部事業	対象
①	ターゲットエイジ育成・強化事業【リニューアル】		ジュニア・少年選手
	①-1 チームみえジュニア育成事業		
	①-2 ジュニアクラブ・運動部強化指定事業		
	①-3 高等学校運動部強化指定事業		
②	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	○	少年・成年選手共通
③	トップジュニア育成事業	○	
④	女性アスリートタレント発掘・育成事業	○	
⑤	トップアスリート応援事業【新規】	○	
⑥	チームみえ国体選手強化事業【統合】	○	
⑦	女性アスリートサポート事業		成年選手
⑧	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	○	
⑨	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	○	
⑩	トップアスリート就職支援事業		
⑪	スポーツ指導員配置事業		指導者
⑫	ディレクター配置事業【新規】		
⑬	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	○	
⑭	競技用具等整備事業		環境整備
⑮	みえのアスリート応援・発信事業	○	広報啓発

## 2019年度事業計画書（案）

### 1 会議の開催について

- (1) 本部会議
- (2) 競技力向上対策委員会
- (3) 専門委員会
  - ① ジュニア・少年選手強化専門委員会
  - ② 成年選手強化専門委員会
  - ③ 企業等連絡調整専門委員会

### 2 選手の育成・強化事業について

- (1) ジュニア・少年選手
  - ① チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業
  - ② トップジュニア育成事業
  - ③ 女性アスリートタレント発掘・育成事業
  - ④ トップアスリート応援事業【新規】
- (2) 少年選手・成年選手共通
  - ① チームみえ国体選手強化事業
- (3) 成年選手
  - ① 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業
  - ② 東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業

### 3 指導者の養成事業について

- (1) チームみえ・コーチアカデミーセンター事業

### 4 広報啓発について

- (1) みえのアスリート応援・発信事業

## 2019年度競技力向上対策本部収支予算書(案)

## 1 収入

(単位:千円)

科目	前年度当初予算額	本年度当初予算額	比較増減額	説明
負担金	172,908	297,706	124,798	三重県負担金
計	172,908	297,706	124,798	

## 2 支出

(単位:千円)

科目	前年度当初予算額	本年度当初予算額	比較増減額	説明	
事業費	会議費	2,738	3,893	1,155	
	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業	1,500	1,500	0	
	トップジュニア育成事業	3,000	4,500	1,500	
	チームみえ国体選手強化事業	107,231	189,231	82,000	トップ選手育成事業を統合
	女性アスリートタレント発掘・育成事業	9,602	10,000	398	
	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	9,000	15,000	6,000	
	東京オリンピック競技大会等選手強化指定事業	2,000	2,300	300	
	トップアスリート応援事業	0	3,800	3,800	
	みえのアスリート応援・発信事業	2,822	3,500	678	
	チームみえ・コーチアカデミーセンター事業	35,000	63,967	28,967	
事務局費	15	15	0		
計	172,908	297,706	124,798		



そ の 他  
(情報共有事項)





三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備について

三重県地域連携部  
国体・全国障害者スポーツ大会局

三重とこわか国体・三重とこわか大会については、平成 30 年 7 月、正式に開催が決定されるとともに、同年 12 月には、三重とこわか国体の競技別会期も決定されました。

平成 31 年度は両大会の開催 2 年前となることから、引き続き、市町や競技団体等と連携し、開催準備を着実に進めていきます。

1 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備状況

(1) 広報、とこわか運動（県民運動）の展開

県民の皆さんが、両大会に「する」「みる」「支える」といったさまざまな関わりを持っていただけるよう、市町等と連携したイベントの開催、県民の主体的な取組であるとこわか運動の促進などに取り組んでいます。また、とこわかダンスについては、学校等を中心に普及を進めており、ダンスを習った学校では運動会で披露する等地域への周知につながってきています。

平成 31 年度は、引き続き、市町や広報ボランティアと連携し、700 日前等の節目を生かしたイベントの実施、とこわか運動の促進、とこわかダンスの普及に取り組むとともに、両大会の運営に係るボランティアの募集を開始し、県民の皆さんの両大会への参加意識を醸成していきます。

(2) 開・閉会式の式典内容の検討

両大会における開・閉会式の式典内容については、音楽、歴史、文化等の有識者で構成する式典専門委員会で検討を進めています。

三重らしさを感じられる式典の実施に向けて、式典のコンセプトや演技等にかかる基本的な考え方を示した式典基本計画をとりまとめました。平成 31 年度以降は、この計画に基づき、式典運営や演技内容、音楽等より具体的な項目について検討していくこととしています。

(3) 宿泊、輸送・交通対策の取組

宿泊対策については、効率的かつ円滑な業務遂行と経費節減を図るために、県と市町が一体となって宿泊施設の一元管理・配宿を行う「合同配宿実施方針」を策定しました。今後、この方針に基づき、宿泊施設の設備や料金等の調査結果も踏まえ、市町や関係団体等と連携し、宿泊施設の確保に取り組んでいきます。

輸送・交通対策については、関係機関と協議しながら、開・閉会式会場となる「三重交通 G スポーツの杜 伊勢 陸上競技場」周辺の交通状況を反映した交通シミュレーションを行うとともに、パーク&バスライド方式による遠隔地駐車場などについて検討しました。平成 31 年度はこれらをもとに輸送計画の骨子案をまとめ、以後、より詳細な輸送計画を策定していきます。

#### (4) 三重とこわか大会におけるバリアフリー対策

三重とこわか大会の各競技会場において、参加するすべての人が安全で快適に大会を楽しむことができるよう、バリアフリー調査を行いました。

調査の結果、施設の段差など配慮すべき事項が確認できたことから、平成31年度から実施する会場仮設整備設計等において、仮設スロープ、注意喚起表示の設置などの具体的な対応策を検討していきます。

#### (5) 三重とこわか大会で実施するオープン競技

三重とこわか大会では、正式競技（14競技）以外で、広く障がい者スポーツを普及する観点から公募を行った結果、「スポーツウエルネス吹矢」及び「ハンザクラスセーリング」の2競技の応募があり、三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会常任委員会において三重県案を選定しました。その後、中央主催者（（公財）日本障がい者スポーツ協会及び文部科学省）と協議をふまえ、開催が決定しました。

今後、正式競技、オープン競技ともに円滑な運営のため実施団体と連携を密にし、実施に向けて取り組んでいきます。

競技名	主催団体	開催予定施設
スポーツ ウエルネス吹矢	・三重県スポーツウエルネス吹矢協会 ・三重県スポーツウエルネス吹矢協会津支部	津市久居体育館
ハンザクラス セーリング	・三重県ヨット連盟 ・日本ハンザクラス協会 ・セイラビリティ三重	津ヨットハーバー

## 「第2次三重県スポーツ推進計画」について

三重県地域連携部  
国体・全国障害者スポーツ大会局

県では、三重県スポーツ推進計画の計画期間が平成30(2018)年度までとなっていることから、平成31(2019)年度以降の本県のスポーツ推進に関する計画を策定することとしました。

三重とこわか国体・三重とこわか大会をはじめとする大規模スポーツ大会の開催を好機と捉え、「三重県スポーツ推進条例」に掲げた「県民力を結集した元気なみえ」の実現に向けて、引き続き取組を進めていきます。

## 1 計画のめざす姿

三重県スポーツ推進条例のめざす姿である、「県民力を結集した元気なみえ」を実現するための計画とします。

## 2 計画期間

2019(平成31)年度から2022(令和4年)年度までの4年間とします。

## 3 計画の特徴

○三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功

三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功に向けて、県民の皆さんが両大会に「する」「みる」「支える」といったさまざまな形で関わっていただけるよう、市町や競技団体等と緊密に連携し、「オール三重」で開催準備と大会運営に万全を期していきます。さらに、三重とこわか国体での天皇杯・皇后杯の獲得をめざし、国体後も競技力を維持できるようにします。

○障がい者スポーツの裾野の拡大

県では、ボッチャ国際大会の開催(H30.3)や英国パラスイミングチームの合宿(H30.9)、日本パラ水泳選手権大会(H30.12)の誘致を行うなど、障がい者スポーツを「する」「みる」「支える」ことへの関心や理解を高める取組を進めています。

これらの取組に引き続き、三重とこわか大会を開催することで、障がいのある人がスポーツに取り組む機会の充実と参加意欲の向上を図ります。

また、障がいのある人がスポーツを通じて、自己の能力を最大限発揮し、自己実現をめざすことができる共生社会の実現に取り組めます。

○大規模大会のレガシー(遺産)を継承

全国高等学校総合体育大会、三重とこわか国体・三重とこわか大会、さらには東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組(事前キャンプ地誘致、聖火リレー等)に「オール三重」で取り組むことで得られる有形・無形のレガシーを広く継承し、スポーツを通じた人づくり、地域づくりにつなげていきます。

#### 4 今後の取組

三重県スポーツ推進条例のめざす姿である、「県民力を結集した元気なみえ」の実現に向けて、それぞれの推進施策の密接な連携を図りながら取組を進めていきます。

また、計画の実行には、市町や関係団体との連携が不可欠です。市町や関係団体には、三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備やスポーツイベントの開催等さまざまな機会を活用して、計画の趣旨や内容の周知を図ることにより、実効性のある計画としていきます。





# 三重ととわか国体

第76回国民体育大会 2021年 9月25日(土)~10月5日(火)

ときめいて人 かがやいて未来 2021

# 三重ととわか大会

第21回全国障害者スポーツ大会 2021年 10月23日(土)~10月25日(月)

